

## 平成 25 年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

校訓の「自由と規律（自己規律）」を基本に、自らが社会のルールを守り、そして、仲間と力を合わせ、よりよい社会を形成する人材育成をめざす。そのためには、学習活動とクラブ活動の両立を図り「明るく・たくましく・心爽やかな」生徒を育成し、社会とつながる力を持たせて、社会に送り出すことが大切である。

## 2 中期的目標

## 1 確かな学力の育成

## (1) 学習指導の更なる推進

- ア 学習不振者には更なる補習を強化し留年生徒や転退学生徒を減少させる。
- イ 進学希望生徒達には授業内容の更なる工夫と、講習を通じて進路実現に向けて努力させる。
- ウ 新規採用4年目の教員を中心に研究授業に取り組む。
- エ 朝の連絡会やショートHR等を通じて、生徒の状況把握と更なる遅刻・欠席の減少を図る。
- オ 更なる授業改善に向けて研究授業や公開授業を展開し、生徒及び保護者等による授業評価を通じて指導の向上を図る。また、教育センターのカリナビや（パッケージ）研修を活用して指導力の向上に努める。
- ※ 留年生徒（平成24年度 1.06%）を毎年0.02%減少させ平成27年度には1%以下にする。
- ※ 生徒向け学校教育自己診断における授業満足度（平成24年度45%）を毎年2%引き上げ、平成27年度には50%以上に引き上げる。
- ※ 生徒向け学校教育自己診断における「授業がわかりやすい」の項目（平成24年度37%）を毎年3%引き上げ平成27年度には46%に引き上げる。
- ※ 遅刻・欠席者数（平成24年度6846件）を毎年200件減少させ、平成27年度には6246件以下にする（12月末で比較）。

## 2 夢と志を持つ生徒育成

## (1) 進路指導の充実

- ア 3年間を見越した指導に取り組み、1年生から計画的に各大学や専門学校そして職業教育等について、HR等を通じて指導する。
- イ 進路説明会は、保護者が参加しやすいよう基本的に土曜日開催とする。
- ウ 1年の「情報の時間」に進路に関する課題（将来就きたい職業）を与え、情報機器等で情報を集めさせ、そのためには今何をすべきか文化祭等でプレゼン大会を企画し発表させるなどによりプレゼンテーション能力を学年があがるにつれて育成するとともに、進路意識を更に明確にさせる。
- ※ 進学率90%以上、未定率1%以下を維持する。
- ※ (2) コミュニケーション能力の育成

エ 「実践的キャリア教育・職業教育」支援事業を引き続き活用し、コミュニケーション能力を育成する。

オ 文化祭等で、生徒が自主的に活躍できる機会を多く設けて自己肯定感を育成する。

## (3) 「生徒の志（こころざし）」を磨く

- カ 総合的な学習の時間等の計画を再検討し、「生徒の志」を更に育成する。
- ※ 生徒向け学校教育自己診断の自己肯定感に関する項目における肯定率（平成24年度27%）を毎年5%引き上げ、平成27年度には42%にする。

## 3 安全安心で魅力ある学校づくり

## (1) 「生きた壁」となる教職員集団の構築

生徒が悩み不満をぶつけても暖かく受け止め、話を聞いてもらえる環境「生徒の居場所づくり」と、あかんものは、あかんと丁寧に対応する「規律指導」。これらのことを教職員集団が一人ひとり「生きた壁」となり生徒たちを育成する。

- ア 学年職員室を有効活用し、平素から生徒の状況について情報交換ができる環境を作る。
- イ 教育相談体制を更に充実させ、生徒や保護者そして教職員も安心して相談できる体制を作る。
- ウ 教職員を教育相談に関する研修に積極的に参加させて、更なる指導力の向上を図る。
- エ 「すべての教職員が生活指導部」として取り組み、様々な事象に丁寧に適切に対応し「安全で安心な」学校づくりに取り組む
- ※ 生徒向け学校教育自己診断の規範意識に関する項目における肯定率（平成24年度29%）を毎年5%引き上げ、平成27年度には43%にする。
- ※ 生徒向け学校教育自己診断の教育相談に関する項目における満足度（平成24年度36.5%）を毎年5%引き上げ、平成27年度には50%にする。

## (2) 共に学ぶ支援教育の更なる推進

- オ 様々な特性を持つ生徒達に互いの違いを認め合い「共に生きる」精神を醸成し、学校に来るのが楽しいと感じる学校環境をつくる。
- カ 支援が必要な生徒には適切な支援計画を作成し、組織として取り組む。
- ※ 生徒向け学校教育自己診断の学校生活に関する項目における満足度（平成24年度56%）を毎年3%引き上げ、平成27年度には65%にする。

## (3) 豊かな高校生活を送らせる

- キ 文化祭を更に活性化させるために、生徒自らが仲間と協力し内容のあるものになるよう教職員が支援する。
- ク 「実践的キャリア教育・職業教育」支援事業を活用し、舞台発表の充実を図り、発信能力を向上させる。
- ケ 体育大会を更に活性化させるために何事にも全力で取り組む精神力と体力を育成する。
- コ クラブ入部率を上げ生徒の個性を育成する。
- サ 専門的知識と技術を持つ教職員を中心に、クラブ活動の更なる活性化を図り、さらに若手教職員の指導者養成にも取り組む。
- ※ 生徒向け学校教育自己診断の学校生活に関する項目における満足度（平成24年度56%）を毎年3%引き上げ、平成27年度には65%にする。
- ※ 保護者向け学校教育自己診断の学校に対する満足度（平成24年度52%）を毎年5%引き上げ、平成27年度には67%にする。
- ※ クラブ入部率（平成24年度42.2%）を毎年2%以上引き上げ、平成27年度には50%にする。

## 4 地域と連携した学校づくりに取り組む

## (1) ホームページの充実

ア ホームページを充実させ広報活動に努める。

## (2) 更なる地域連携に取り組む

イ 地域連携行事として地元中学・保育園等と連携して運動系・文化系クラブを中心に地域交流行事を行う。

ウ 文化祭の土曜開催

## (3) 広報活動の充実

エ 本校で開催する学校説明会を土曜開催とし、中学生徒・保護者が来やすい環境を作る。

オ 広報委員会を設置し中学校訪問等を計画し全職員で取り組む。

※ 地域向け学校教育自己診断を実施し、開かれた学校に関する項目で満足度60%以上をめざす。

また、毎年5%引き上げ、平成27年度には70%にする。

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成25年12月実施分]	学校協議会からの意見
<p>【学習指導等】 (生徒)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校に来ることを肯定的（「はい」と「どちらかといえばはい」の回答数の合計）にとらえている生徒の割合は、60.0%と昨年度と比較すると4ポイント上昇している。</li> <li>・授業全般についての設問では、「わかりやすいか」肯定的な回答は42%で昨年度と変化はなかった。</li> <li>・授業内容に関する設問、「基礎的・基本的な内容理解について」は、56.5%の生徒が肯定的にとらえ、「教員には話しやすいか」との問いには54.7%の数字が表れている。</li> </ul>	<p>第1回（7/4）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○学校協議会実施要綱について</li> <li>・学校協議会の目的とする、保護者等との連携協力や学校運営への参加、保護者の意向の反映などの説明をおこなう。</li> <li>・学校経営計画や学校評価、教育活動における保護者の意見に対する調査審議など協議会の役割を説明・確認する。</li> <li>○学校経営計画と現状報告</li> <li>・平成25年度学校経営計画の説明と確認</li> </ul>

<p>・学習評価の方法については70.6%の生徒が理解している反面、「わからない」との回答が13.1%を占める。</p> <p>・文化祭や体育祭などの行事への参加は6割以上の生徒が積極的に参加するが、日頃のHR（ホームルーム）活動についての関心は、40.0%にとどまっている。</p> <p>・クラブ活動についての関心度は46.0%と6ポイントの増加であるが、今年度は1年生が積極的に参加し活動していることで、入部率は49.8%と大きく上昇した。</p> <p>○ 教員は授業を進めるにあたって、生徒の状況を確認しながら理解を深め関心を高める。一方生徒は、評価（成績）については関心が高く、基礎的・基本的な内容は理解するものの、一歩踏み込んだ内容になり時間をかけて考え答えを導き出す場面になると興味を失いがちである。これは授業に限らず様々な状況の下でも、失敗を重ねた末に回答を見つけ出したり最後まで自分一人で問題に取り組むことなどが苦手で、容易く回答が見つかる（教えてもらう）ことが日常になっていることにも起因しているように思われる。</p> <p>今後の課題としては、時間はかかるが生徒を鍛える取り組みも必要である。</p> <p>○ クラブ活動や学校行事への積極的な参加を促すことで、失敗を恐れず何事にも意欲的に取り組む姿勢を養いたい。</p> <p>また、日頃のHR活動を充実させることで、クラスの連帯感や帰属意識の構築につなげたい。</p> <p>(保護者)</p> <p>・学校生活全般に対する問いかけには、昨年度と比較して5ポイント増加の73.0%と高い支持をいただいた。</p> <p>・昨年度と比較して肯定的なポイントが上昇した項目は、生徒指導への理解(56%と11ポイントのアップ)、続いては進路指導についての項目で64%と9ポイントの上昇を示している。</p> <p>・その他、学習評価への理解や規範意識の啓発等、すべての項目において理解を深めることができた。</p> <p>○ すべての項目において理解は深まったものの、「家庭への連絡」を尋ねた設問が50%に届かなかったこととも関連するが、生徒の授業の取り組みや状況(34.0%)が分かりにくいとの意見からも見て取れる。</p> <p>次年度は、保護者への確実な連絡と連携を深めることが課題である。</p> <p>【生徒指導等】</p> <p>・「学校生活での生活指導に納得できるか」との設問に、生徒については38.4%の支持にとどまっているが、保護者の理解は56.0%と17.6ポイントと大きな差がある。</p> <p>・生徒の規範意識は、昨年度との比較では9ポイント上昇したものの38.0%と低い水準にある。一方保護者が学校に臨む規範意識の啓発は、55.0%と高い。この結果からも、生徒の規範意識の向上には更に保護者との協力と連携が欠かせない。</p> <p>・生徒への設問「先生はいろいろな問題を見逃さず対応してくれるか」との回答では、満足度がわずかながら増加したものの26.0%にとどまっている。今後の大きな課題と考える。</p> <p>○ 生徒指導についての考え方は、生徒と保護者や教職員では大きな差が見て取れる。本校が行っている指導には保護者の理解もあり、今後も粘り強く生徒の指導にあたっていくが、生徒が理解し納得する話し方や対応を行う必要がある。</p> <p>入学時から生徒や保護者に対して、本校の校則「自由と規律」の意味を十分に理解してもらい、学校と連携した取り組みとする必要がある。</p> <p>○ 生徒指導は、組織としての対応や教員の情報の共有は重要なことであるが、事象が発生したときの迅速で的確な対応ができる指導力を各々の教員が向上させる必要がある。</p> <p>○ 生徒の自己肯定感に対する評価が昨年度と比較して上昇はしたが32.7%（昨年度27.0%）と低い。自分の行動に自信を持ち、意欲的に行動する生徒を育成するためにも、誇りやプライドの言葉に集約できる自己肯定感を育む取り組みが必要である。</p>	<p>○協議会からの意見</p> <p>・学校評価については、正確な評価・数値を得るためには質問項目や内容により評価も変わるため、アンケート等での質問の仕方に工夫がいる。</p> <p>・数値目標にこだわるあまり、安易な取り組みとならないように。</p> <p>・目標に向け果敢に取り組むことが大切であり、その結果として数値が達成できればよい。</p> <p>・中学校でもそうであるが、自己肯定感がどの学校においても低い。自己肯定感の伸長がその他様々な取り組みの指標・数値とも関連すると思われる。</p> <p>第2回（12/20）</p> <p>○学校経営計画、進捗状況の報告と活動報告</p> <p>・創立40周年 記念式典の実施（11/22）の報告</p> <p>・各分掌、学年団より取り組みの説明・報告</p> <p>○協議会からの意見</p> <p>・来年度の入学者選抜から校区が撤廃され募集人数も発表されるが、それに向けて学校はどのように取り組んでいるのか。</p> <p>・生徒の懲戒件数は減少しているが、自転車通学に象徴される若者のマナーの悪さを是正（規範意識を高める）することが安全教育の観点からも急務である。</p> <p>・数学や英語の授業での展開授業については、クラス分けの方法を生徒だけではなく保護者にも説明してほしい。出席番号順に機械的に分けているにもかかわらず、一部の生徒や保護者に誤解が生じている。</p> <p>・様々な課題を抱えた生徒のため、校内に支援教育委員会が設置されていると聞くが、組織や運用について教えてほしい。</p> <p>第3回（3/27）</p> <p>○学校経営計画、活動報告と達成状況</p> <p>・平成26年度学校経営計画（案）</p> <p>○協議会委員からの意見</p> <p>・入学者選抜検査において定員割れとなったが、学校としてはどのように受け止め今後の対策を考えているのか。</p> <p>⇒本校の実情を十分に伝えきれなかったことが一つの原因と考える。来年度は教員による情報発信だけではなく生徒自身が出身中学校へ訪問し実情を伝える活動を考えている。そのためには、今まで以上に魅力ある学校としてアピールできる全校的な取り組みが必要と考える。</p> <p>・今年度の学校経営計画についてほとんどの項目において目標を達成しているが、学校説明会についてはどのように改善するのか。</p> <p>⇒教育委員の説明会をはじめとし地区校長会等多くの説明会が実施されたことも理由の一つとは考えるが、来年度については模擬授業の講座を増やす工夫やクラブ活動の体験など、受験生が実際に参加・活動できる説明会としたい。</p> <p>・平成26年度の学校経営計画（案）について、新たな取り組みにはどのようなものがあるのか。</p> <p>⇒前述の生徒による中学校訪問の他、以下のことを計画している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業力向上や改善を目的として、研究授業を実施し教員の授業力の向上をめざす。</li> <li>・これからの10年を見据えた、第二の校訓とする目標（スローガン）の作成</li> <li>・教科や分掌の業務をより具体化（視覚）し、学年進行とも関連づけた《貝南マップ》を作成する。</li> <li>・通学路の安全確保をめざし、関係機関（市役所、警察署、土木事務所等）との協議を行い事故防止に努める。</li> </ul> <p>・クラブ活動の参加者の増加やボランティア活動での表彰（大阪少年補導協会）など生徒の地道な活動を今後とも支援してほしい。</p> <p>・目標達成のためには、どの分掌・学年・教科が主になって行うのかという役割分担を明確にする必要がある。</p> <p>・学校協議会の委員や保護者にも見やすい（分かりやすい）学校経営計画にしてほしい。</p>
---	---

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 確かな学力の育成	<p>(1) 学習指導の更なる推進 ア 学習不振者には更なる補習を強化 イ 進学希望生徒達には授業内容の更なる工夫と、講習 ウ 研究授業の推進 エ 学年職員室の有効活用 オ 更なる授業改善</p>	<p>(1) ア・新入生から学習不振者に対して更なる補習を強化し留年生徒の減少に取り組む。 イ・進学希望生徒達には授業内容の更なる工夫と、講習を通じて進路実現に向けて努力させる。 ウ・新規採用4年目の教員を中心に研究授業に取り組む。 エ・朝の学年打合せやショートHRの内容を検討して更に活用することで、生徒の状況把握と遅刻・欠席の更なる減少に努める。 オ・更なる授業改善に向け、少人数展開・研究授業や公開授業を実施し、生徒及び保護者等の授業評価を通じて指導の向上を図る。また、教育センターのカリナビや(パッケージ)研修を通じて指導力の向上に努める。</p>	<p>ア・イ・ウ・オ ・留年生徒(平成24年度1.06%)を1.04%以下にする。 ・生徒向け学校教育自己診断における授業満足度(平成24年45%)を47%にする。 エ ・遅刻欠席者数(平成24年度6,846件)を6,646件以下にする。(12月末で比較) オ・生徒向け学校教育自己診断で「授業はわかりやすい」の項目(平成24年度37%)を40%にする。</p>	<p>ア・イ・ウ・オ、 生徒向け学校教育自己診断における授業満足度は、49.3%と目標値を2.2ポイント上回ることができた。(◎)  欠点保持者には、各学期終了後の長期休暇に補習を実施した。その際には、保護者の理解と協力を求めるため文書による連絡を行い指導の徹底を行った。 その結果、3年生1名、2年生8名、1年生0名 合計9名が原級留置となり、率は、0.99%で目標値を下回った。(○)  イ 進路実現に向けた取り組み(12月末現在) ・4年制大学：和歌山大学(1) 近畿大学(4) 龍谷大学(1) 大阪経済大学(6) 桃山大学(16) 阪南大学(16) 佛教大学(2) ・短期大学：常磐会短期大学(6) 大阪キリスト教短期大学(4) 関西外国語大学短期大学部(1) ・河崎会看護専門学校(5) 清恵会医療専門学校(3) など、成果が表れている。(○) 授業満足度は、49.3%と目標値よりもさらに2.3ポイント上昇した。(◎)  エ 始業前のSHRでの生徒状況の把握や指導体制の強化で、欠席者や遅刻者は目標とする数値より大幅に減少した(◎) ・欠席数 2,469 遅刻数 3,354 合計 5,823  オ 授業研究の実施は新規採用教員が中心であったが、指導力向上の一助となった。(○)  これら学習に関するすべての取り組みは、学校の根幹でもあり、生徒の自己実現にも大きく関わる事柄でもある。 改善を加え引き続き取り組んで行く。</p>
2 夢と志を持つ生徒育成	<p>(1) 進路指導の充実 ア 3年間を見越した指導、 イ 進路説明会の充実 ウ プレゼンテーション能力の育成  (2) エ コミュニケーション能力育成 オ 自己肯定感の育成  (3) カ 「生徒の志(こころざし)」を磨く</p>	<p>(1) ア・3年間を見越した指導に取り組む、1年生から計画的に各大学や専門学校そして職業教育等について、HR等を通じて指導する。 イ・進路説明会を基本的に土曜日開催とする。 ウ・1年の「情報の時間」に進路に関する課題(将来就きたい職業)を与え、情報機器等で情報を集めさせ、そのためには今何をすべきかを発表させることによりプレゼンテーション能力を育成するとともに、進路意識を明確にさせる。(全学年で実施する。)  (2) エ・「実践的キャリア教育・職業教育」支援事業を活用し、コミュニケーション能力を育成する。 オ・文化祭等で生徒が自主的に活躍できる機会を多く設けて、自己肯定感を育成する。  (3) カ・総合的な学習の時間等の計画を再検討し、「生徒の志」を更に育成する。 また、各種ボランティア活動や地域交流会を通じて志を育成する。</p>	<p>ア・イ ・進学率90%以上、フリーター1%以下を維持。(平成24年度は2名)  ウ・エ・オ・カ ・生徒向け学校教育自己診断の自己肯定感に関する項目における肯定率(平成24年度27%)を32%以上にする。</p>	<p>ア・イ 進学率 90.2% (○) ・就職：学校斡旋を希望した生徒の100%が内定 ・公務員：2名が合格 ・進路未定の者は、8名(3月11日現在)(△) 8名については、引続き担任や進路指導部で相談や指導を行っている 進路指導については、講習による指導は基より今後も外部講師をも含め継続した指導に取り組む  イ 進路説明会を土曜日に実施し、多くの生徒や保護者の参加をいただいた。(○) 次年度も継続し土曜日開催とする。  ウ 教科「情報」で実施し、授業の中で短い時間ではあるが全員がプレゼンテーションを行うことで進路意識向上につながった。(○) 次年度は、教科の指導にとどまらず多くの機会を捉えて取り組みたい。  エ 昨年に続いての実施で、生徒の取組も昨年より向上している。面接試験等の進路実績でも良い成果が出ている。また、文化祭での発表や舞台表現でも取り組みを生かすことができた。(○) 今年度までの成果を活かし、次年度も継続して取り組みたい。  ウ・エ・オ・カ 生徒向け学校教育自己診断の自己肯定感に関する項目における肯定率は5.7ポイント上昇の32.7%と目標値を達成した。(○) 今後とも文化祭・体育大会等の行事や活動を通じて、生徒の活躍の場を多く設け自己肯定感を育成に取り組む。</p>

<p>3 安全安心で魅力ある学校づくり</p>	<p>(1)「生きた壁」となる教職員集団の構築 ア 学年職員室設置 イ 教育相談の充実 ウ 指導力向上 エ 安全安心な学校作り</p> <p>(2)共に学ぶ支援教育の更なる推進 オ 共に生きる精神醸成 カ 支援計画作成</p> <p>(3)豊かな高校生活を送らせる キ 発信能力の向上 ク 精神と体力の育成 ケ クラブの活性化 コ 指導者育成</p>	<p>(1) ア・学年職員室の設置 イ・教育相談体制の充実 ウ・研修に参加させ更なる指導力の向上を図る。 エ・「すべての教職員が生活指導部」として取り組み、様々な事象に丁寧に適切に対応し「安全で安心な」学校づくりに取り組む。</p> <p>(2) オ・様々な特性を持つ生徒達に互いの違いを認め合い「共に生きる」精神を醸成させ、学校に来るのが楽しいと感じる学校環境をつくる。 カ・適切な支援計画を作成し、組織として取り組む。</p> <p>(3) キ・「実践的キャリア教育・職業教育」支援事業を活用し、舞台発表の充実を図り、発信能力を向上させる。 ク・体育大会を更に活性化させるために何事にも全力で取り組む精神力と体力を育成する。 ケ・クラブ入部率を上げるために新1年生からクラブ体験を実施する。 コ・専門的知識と技術を持つ教職員を中心に、クラブ活動の更なる活性化を図り、さらに若手教職員の指導者養成にも取り組む。</p>	<p>ア・キ・ク ・生徒向け学校教育自己診断の規範意識に関する項目における満足度(平成24年度29%)を5%引き上げ34%以上にする。</p> <p>イ・ウ ・生徒向け学校教育自己診断の教育相談に関する項目における満足度(平成24年度36.5%)を41%以上にする。</p> <p>エ・オ・カ ・生徒向け学校教育自己診断の学校生活に関する項目における満足度(平成24年度56%)を59%以上にする ・保護者向け学校教育自己診断の学校に対する満足度(平成24年度52%)を57%以上にする。</p> <p>ケ ・クラブ入部率(平成24年度42.2%)を44%以上にする。</p>	<p>ア・キ・ク 生徒の学校教育自己診断の規範意識に対する肯定度は38.0%と、目標値をさらに4ポイント上回った。(◎)</p> <p>イ・ウ 生徒の学校教育自己診断の教育相談に関する項目における満足度は39.5%で、3ポイントは上昇したものの目標値までは達しなかった。(○) 次年度も継続して取り組む。</p> <p>エ・オ・カ 生徒の学校教育自己診断の学校生活に関する項目における満足度は60.0%と、目標を達成した。(◎) 保護者に対する学校教育自己診断における学校に対する満足度は、6ポイントと目標値を大幅に上回った。(◎) 一昨年度、診断の形式を改変(記述からマークシートへ)により引き続き多くの保護者から回答を得た。(○) 多くの意向・意見を知り学校運営に生かすためには今後とも改善に取り組む</p> <p>キ キャリア支援事業は最終の3年目を迎え、生徒も意欲的に取り組んでいる。(○) キャリア支援事業は終了するが、何らかの方策で次年度も実施したい。</p> <p>ケ クラブ活動は、1年生が積極的に参加し活動したことで入部率は49.8%(H24:42.2%)と大幅に上昇した。 また、女子バスケットボール部が選手権大会において6位入賞するなど活躍している。(◎)</p> <p>コ 基本的にクラブ活動は自主的な活動であり、また専門性も必要とされることから取り組みの度合いに依然として差がある。 その他、再任用等年配の教職員が多く勤務の配置からも困難を極めた。(△)</p> <p>活発なクラブ活動や生徒の取り組みが学校の活性化につながると思われるので、次年度も意欲的に取り組む。</p>
<p>4 地域と連携した学校づくり</p>	<p>(1)広報活動充実 ア ホームページの更新</p> <p>(2)地域連携 イ 地域交流行事開催 ウ 文化祭(土曜)</p> <p>(3)広報活動の充実 エ 学校説明会 オ 広報委員会</p>	<p>(1) ア・基本一カ月に一度以上ホームページを更新し、更に新しい情報はその都度更新して広報活動に努める。</p> <p>(2) イ・地域連携行事として地元中学・保育所等と連携して運動系・文化系クラブを中心に地域交流行事を行う。 ウ・文化祭の土曜日開催</p> <p>(3) エ・本校で開催する学校説明会を土曜開催とし、生徒保護者が参加しやすい環境を維持。 オ・広報委員会が、中学校訪問等を計画し全職員で取り組む。</p>	<p>ア・イ・ウ・エ・オ ・地域向け学校教育自己診断で、開かれた学校に関する満足度(平成24年度60%)を65%以上にする。</p> <p>オ ・学校説明会参加者を昨年度240名を平成25年度は350名に増やす。</p>	<p>ア・イ・ウ・エ・オ 中学校や地域向け学校教育自己診断での開かれた学校に関する項目は、昨年度と比較して目標値を6ポイント上回った。(◎) 地域への情報発信はややもすれば一方通行になりがちで、今後は情報の受信にも更に気を配る改善を行いたい。</p> <p>イ 貝塚警察署と連携してのボランティア活動は、1年間を通して実施(合計8回)し、活動の中で地域の小学校や少年野球チームなど地域の多くの人たちと交流し認知された。(◎) 生徒の自主的な活動の核となるものができたので、来年度はさらに発展した取り組みとしたい。</p> <p>ウ 土曜に開催 PTA・保護者参加のバザーや日本赤十字の献血にも協力できた。(○) 土曜開催を継続させ、生徒が活力を発揮する文化祭としたい。</p> <p>エ・オ 本校での学校説明会は土曜日の開催としたが、参加者は203名と目標値には残念ながら達しなかった。(△) 次年度も中学校との連携や広報活動の一環として、中学校訪問には力を注ぎたい。</p>